

重度障害者外泊介助に公費

今年度から 350 人対象（札幌市）

札幌市が今年度から、自宅で暮らす重度身体障害者の介助サービスについて、宿泊先でも公費で受けられるよう制度変更したことが分かった。宿泊先での介助サービスの対応は全国の自治体でばらつきがある。重度身体障害者は「生活の質が向上する」と札幌市の対応を歓迎している。

障害者総合支援法は、心身に重い障害がある人でも自宅で暮らせるよう、障害の程度に応じて食事や入浴など生活全般の介助が公費で受けられると定めている。札幌市はこれまで、「公費によるサービスである以上、対象はあくまで自宅」とし、離れた実家やホテルなどで宿泊する場合は、自宅と同じ内容の公費介助は認めなかった。

国は宿泊先での公費介助を認めるかどうかは「市町村の判断」としており、自治体によって対応が分

かれている。札幌市は制度変更の理由について「当事者からの要望や、他の政令市の状況を踏まえた」と説明。変更により札幌市内で約 350 人が対象になるという。

同市白石区の NPO 法人理事長、佐藤きみよさん（52）は、全身の筋力が低下する進行性脊髄性筋萎縮症の難病を抱えている。自宅ではほぼすべて公費による介助を受けており、市に改善を申し入れてきた。制度変更について「私たちには多くの場面で介助が必要だ、ということが認められた。大きな前進」と喜ぶ。5 月の大型連休には東京へ行く予定で、「同じ障害をもつ人たちが、どんどん社会に出て行くきっかけになる」と話している。

（毎日新聞・札幌 2015 年 4 月 24 日）

聴覚障害者が当選

議会で手話通訳も検討（統一地方選挙）

4 月 26 日に投開票の地方統一選挙が行われ、聴覚障害のある女性 2 人が当選した。

兵庫県明石市議選では、生まれつき耳が聞こえず声も出ない家根谷敦子さん（55）が初当選。27 日、報道陣に「明石の福祉の前進に努めたい」と手話で決意を示した。

家根谷さんは阪神淡路大震災で障害者支援の必要性を感じ、明石ろうあ協会で活動を開始。政治を志すきっかけになったのは、昨年の手話言語条例の検討委員会への参加で、「聴覚障害だけでなく、すべての障害者のコミュニケーション方法を作っていきたい」という。

市議会事務局は今後、家根谷さんと協議したうえで、議会で手話通訳者を設置するなどの対応を検討する。

東京都北区議選では、「筆談ホステス」として知られる斉藤里恵さん（31）がトップ当選を果たした。

27 日未明、報道陣にタブレット端末を使って「バリアフリー社会の実現を目指す」と決意を示した。

病気で 1 歳の時に聴力を失った斉藤さんは、2007～2012 年に務めた銀座のホステス時代、筆談などで接客し話題を集めた。4 歳児の母親でもあり、区民の子育て・仕事の両立への支援強化や高齢者にやさしい街づくりを掲げ、2 位以下を大きく引き離し当選した。

斉藤さんは区議会に、議会で質問する際の音声読み上げソフトの活用や、区長らによる答弁の字幕での表示を求めていく考え。

（福祉新聞・第 2714 号 2015 年 5 月 4 日）